

---

# 夜桜

まめご

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夜桜

### 【著者名】

まめじ

### 【ノーテ】

N2357S

### 【あらすじ】

富姫の踊り子ショロは、偶然、上司である舞踏長マイムの踊りを目にする。

ティエンランシリーズ番外編。時間軸は新王が立つてからしばらくなしての頃。THINAMIより転載作品。

その日、シユロは「んざつしながら歩いていた。

稽古場に練習用の扇を忘れたのである。

疲れ果てた体は夕餉と休憩を求めていたし、上司と顔を合わせるのが嫌だった。

踊り子として宮廷に上がつてから、一年が経とうとしている。それなりにプライドはあつたし、この華やかな職業は格好の伴侶探しに最適だ。

金持ちで様子のいい男がいれば、わざと引退するつもりだった。が、新しく舞踏長に就いたマイムは、容赦なく、かつ鬼の如く踊り子たちを教育した。

「なんでそんなこともできないの、あんたたちは！」

日が暮れる前に解放された日などない。

マイムが宮廷一の踊り子「舞姫」だつた時代をシユロたちは知らない。どうせその美貌で男や世間を誑たらいこんだに違いない。

「本当はドヘタクソなんじやないの」

「ヒステリーって嫌よね」

そう仲間たちと陰口を呴くことで溜飲を下げた。

目指す稽古場には灯りがともつていて、シユロは舌打ちをする。

「つそり様子をうかがうと、秘かな話し声が聞こえた。

鬼のマイムと楽師長ミヨシノのものだ。

うわ、白将軍誑たぶらかした次はミヨシノをまかよ。

だけど、いいネタが出来た。帰つたらさつそくみんなに言つぶらしてやるわ。

ふんだんに話を膨らませて。

にやりと笑ったシユロは、そつと窓から顔を覗かせた。

「いっそすつきりした方が良くなきか」

笑いを含みながら細面の優男が琵琶を掻きならした。

静と鳴る。

「そのためにはわたしは何だつて協力するよ。麗しの舞踏長殿のためならね」

「相変らず口だけはうまいのね」

「口だけではないと自負しているつもりだが」

琵琶は濁だくと響いた。

「観客がいないのが不満だけど」

ゆっくりとマイムは、稽古場の中央に歩を進める。

「お言葉に甘えて一舞しましょづか」

しゃりりと構えた。

その右手を天に掲げ、左手は優美に回転し胸の前へ。

シユロは思わず息を呑む。

ただそれだけの動作に凜々しさと儂さが宿っていた。

「演目は」

「夜桜を」

夜桜。

その舞をシユロは知つてゐる。

春は朧おぼろ、桜の下で女は男を待つてゐる。

静

花びらが闇に舞う。

静

静

静

静

次から次へと絶え間なく。

静

静

静

静

静

静

静

静

静

静

男はこない。

女の慕情は次第に狂氣へと変わる。

静 静 静 濁 濁 静 静 静 静 静

強風が花びらを舞い上げる。

靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜

女の狂氣は風を操り、女の絶望は闇を裂く。  
乱舞する花びら、月も飛ばされる花嵐の夜。

濁 濁 静 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜

静濁 静濁 静濁 静濁 静濁 静濁 静濁 静濁  
靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜 靜

まるでそこだけが異空間だった。小宇宙だった。

激しく鳴る琵琶の音と共に形成される。

これほど圧倒的な舞を見たことがない。

こんな魂が震えるような。

シユロは自分の体を守るように両腕を回していくことなど『氣』が付かず、ただ食い入るように凝視していた。

女はついに事切れる。

濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁  
濁靜濁靜濁靜濁靜濁靜濁靜濁靜濁靜濁靜  
濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁濁

静！

「見事」

ミヨシノの声に、マイムが型を崩した。異空間は、小宇宙は消え、稽古場は現実に戻った。

シユロは動くことが出来ない。

「あら」

マイムは部下に気付いたが、チラリと笑つただけだった。

「観客がいたわ」

そのまま出ていつてしまつた。ミヨシノも後に続く。

それでもシユロは、無人となつた稽古場を凝視しているだけだった。

今しがた目にしたのは舞いか狂氣か、それとも それとも夜桜。

シユロが「舞姫」の称号を押しいただいたのは、それから三年後のことである。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2357s/>

---

夜桜

2011年5月10日13時01分発行